

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立葛川中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査とその結果を受けて】

《概要》

従来の形式の国語と数学の調査に加えて、CBTによる理科の調査も実施されました。本校は小規模の良さを生かして、生徒一人ひとりがじっくりと実験や観察に取り組むことができるよさがあります。また、他の学校では材料調達の関係からできないような骨格標本づくり、総合的な学習の時間と連携した学校林での活動などの、深い体験活動にも取り組み生徒の理科への興味関心を高められていると考えられます。他教科の指導でも、とり残される生徒を出さない、手厚い指導が理解度を下支えしていると分析できます。

一方で、多人数の中で“切磋琢磨”する経験は乏しくなり、良い意味での競争意識による動機付けは弱いです。しかし、アントレプレナーシップの視点を導入することで、学ぶことの意味・意義を自ら見つけ出すことを、9年間の目標として取り組みを進めます。

《強み・弱み》

① 各教科

学年を問わず、基礎的な問題にまじめに取り組むことができる生徒が多く、前向きな姿勢が基礎基本の定着に生徒が確実に力を付けている傾向がでています。一方で、全校の傾向として自分の考えを具体的に記述する形式の課題には苦手意識を持つ生徒が少なからずおり、今後の指導の課題となっています。

課題克服のために、授業での記述練習の機会を増やしたり、個人がしっかりと時間をかけて答えを導き出す課題を設定したりするなど、授業改善を図っていきます。また、少人数の環境で、授業中に自身の考え等を活発に交流する場面に乏しいため、複数の学年での交流や学習をより機会として、考えを伝え合う場面を意図的に取り入れていきます。

また、家庭での主体的・計画的な学習を進めるための支援をさらに進めていく必要があると考えます。

② 質問紙

全体的に起床時間や食事時間が規則正しく、生活習慣が整っている傾向があります。また、日ごろから小学校を含めて和気あいあいとあたたかく接する場面が多く、「いじめはどんな理由があってもいけないこと」などの規範意識も高いと思われます。系統的、継続的なKCLプロジェクトでの体験学習を通じて、基本的な生活習慣の確立が意識でき、生活習慣、規範意識の向上につながっていると考えられます。

一方、少人数ではあるがゆえに、限られた中では良好な人間関係を築いていますが、義務教育終了後に、本校で付けた力をたくましく発揮できるのかを検証する必要があると考えられます。コミュニケーション能力やスキルの育成に関する取り組みを教育課程の中に意図的に取り入れていく必要があると思われます。

学校生活が充実し、自己肯定感が高められるように、家庭・地域と連携、協力しながら生徒が主体的に学ぶ場をさらに確保できる改善を図っていきます。

- ① 小学校とも校内研で連携して、特別支援・ユニバーサルデザインの観点から授業改善に取り組み、ICTを活用しながら、主体的で規律ある授業を推進します。
- ② 基礎学力の定着に向け、授業での「めあて」の提示、「振り返り」の実施を徹底します。
- ③ 少人数指導を活かした、個に応じた指導や繰り返し学習を充実させます。
(授業での記述練習の機会を増やす。個人がしっかりと時間をかけて答えを導き出す課題を設定 等)
- ④ 「帰り学習」の時間での学力補充の取り組みを推進します。
- ⑤ 「ふるさと未来科(KCLプロジェクト)」での体験学習において、将来の生き方について考える機会をもち、コミュニケーション能力を育て、たくましく生きる力を育てます。
- ⑥ 小学校との連携を充実させ、9年間の系統立った学びの場を確保していきます。